王城寺原演習場における米軍実弾射撃移転訓練の訓練見学会が開催

平成３１年２月１２日（火）、王城寺原演習場において、米軍実弾射撃移転訓練の訓練見学会が実施されました。見学会には、宮城県及び演習場が所在する大和町、大衡村、色麻町の関係者や報道関係者、約５０名の参加を得ました。

見学会は、指揮官であるリチャード H. ロビンソン中佐（第３海兵師団第１２海兵連隊第３大隊長）による訓練概要の説明から始まり、引き続き、見学者は射撃の指揮をとる指揮所及び１５５ミリりゅう弾砲等の装備品を見学するとともに、安全に射撃訓練を実施するための手順の説明を受けました。その後、りゅう弾砲を用いた実弾射撃訓練見学を行う計画でしたが、あいにくの悪天候により弾着区域が目視確認できなかったため実施されませんでした。

ロビンソン中佐は、「海兵隊員約２００名、車両約３０両、砲５門によって射撃訓練を実施している。王城寺原演習場での訓練を通じて、安全性を追求する以外に雪や泥などの環境への適応能力を高める」、「任務達成も大事だが、地元への配慮も大事であり、バランスを取りながら訓練を実施する」と言葉を述べ、見学会は終了しました。

天候の悪い中での見学

１５５ミリりゅう弾砲の見学

機関銃の見学

見学者からの質問に答えるロビンソン中佐